

(参考) 「議論」の手法の素案



目的

- ・市民全体のために何をどうすべきかという視点で、様々な層の市民が議論する意義、意識の醸成
- ・普段市政に参加する機会の少ない市民が、市政に参加する機会の拡大
- ・アンケート調査とは異なる「熟慮した市民意見」の収集
- ・有効性を検証し、市政の制度的な仕組みとしての導入可能性を探る

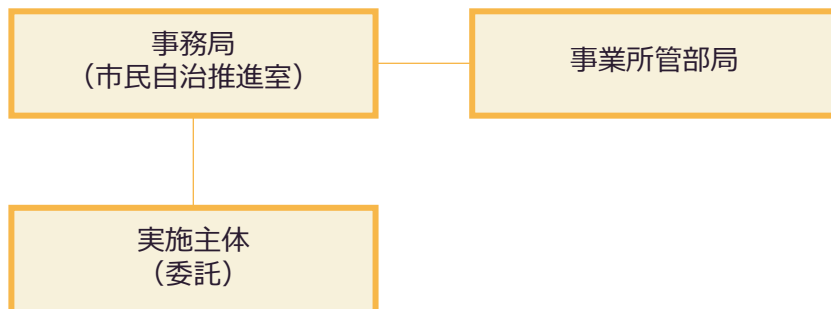
実施期間

- ・テーマに応じて設定

参加者

- ・住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民2千人にアンケート調査を行うとともに、議論への参加を呼びかける。

実施スキーム



実施手法

- ・応募のあった方から抽選して30人を選出。性別や年齢層のバランスを札幌市の構成と同様になるよう考慮。
- ・事前に会議資料を送付し、予備知識を得ていただく。
- ・発言しやすい環境づくりや公平な議論のためにファシリテーターを配置。

会議の進め方

- ・テーマに関し、有識者や関係者、担当課から説明を行った後、各グループ(1グループ4~5人)内で意見交換。
- ・意見交換後、全体の意見を結論としてまとめる。
- ・最後に事後アンケートを行う。

結果の活用

- ・結論の内容や参加者の意識の変化(事前アンケート、事後アンケート)について広く広報する。
- ・結論を受け、市として政策への反映や計画に盛り込むなど、成果を反映するとともに、その結果を公表・周知する。